

令和4年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～					
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー					
重点プロジェクト		次代を担う子どもを育むプロジェクト					
主管課	教育部 社会教育課	評価責任者			山中 昇		
		評価日			令和5年6月1日		
関連課	子育て支援課						
目標	社会教育施設は、市民の学習活動の拠点として市民の学びを支え、地域のコミュニティ形成、学習機会の充実を図ります。放課後の子どもたちの安全と安心な居場所づくりに向けて、放課後子ども事業の活動を充実します。						
施策目標の実現に向けた取組	(1) 社会教育活動の支援 ○地域の課題などを解決するための学習支援や学習の場を提供します。 ○市民の自主的な文化活動の発表の場、交流の場としての各種事業の充実を図ります。 ○生涯学習を推進するため、地域の課題の講座などを開催し、地域に還元できる仕組みを支援します。 ○社会教育関係団体の支援・育成を推進します。 (2) 放課後子ども事業の充実 ○放課後子ども総合プランに基づき、地域の協力の下、放課後児童クラブとの連携を進めます。						

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策目標	指標1	指標名	図書貸出人数					
		説明	図書館の延べ貸出人数。市民ニーズに対応した施設サービスを提供する指標となるため。					
		単位	人					
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	243,000	246,000	249,000	252,000	255,000	258,000
		実績値	229,628	214,973	171,464	190,479	209,992	
	指標2	指標名	公民館利用者数					
		説明	公民館利用者延べ人数。市民ニーズに対応した施設サービスを提供する指標となるため。					
		単位	人					
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	282,400	285,800	289,300	292,900	296,400	300,000
		実績値	275,102	253,639	66,325	77,866	113,849	
	指標3	指標名	資料館入館者数					
		説明	資料館の展示などの入館者数の延べ人数。市民の歴史文化に対する周知や意識の高揚を図る指標となるため。					
		単位	人					
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
		実績値	16,287	14,963	12,673	21,314	17,308	
	指標4	指標名						
		説明						
単位								
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	説明							
	単位							
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	289,522	261,566	372,363	343,244	362,337
	人件費	110,621	95,729	98,722	132,393	118,930
収入	特定財源	18,380	2,657	4,495	4,385	13,532
	一般財源	381,763	354,638	466,590	471,252	467,735

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

	実施内容	実施実績と効果	主な事務事業	
取組①	ふじみ野市民文化祭運営委員会の開催	これまで2会場で開催していた市民文化祭を令和4年度から統合した形で、実行委員会を開催し、3年ぶりに市民文化祭を開催した。	第18回ふじみ野市民文化祭 実施時期：令和4年10月8日(土)～11月6日(日) 参加部門及び人数等：9部門(114団体、76個人、小中学校18校) 入場者数：6,972人 委員会：4回開催	市民文化祭事業
取組②	市民の自主的活動の支援	にほんご教室は、平成6年にスタート。日本人スタッフ(ボランティア)の自主学習による内部研修が毎年開催されている。公民館では活動を支援するためのボランティア講座を開催した。	・にほんご教室 開催数95回、学習参加者数のべ527人、スタッフ参加数のべ769人、学習参加者国籍数24か国、学習参加者外国人数106人。 ・日本語ボランティア養成講座 開催回数3回 学習参加者のべ59人	成人教育事業
取組③	小学校放課後事業推進検討会	新型コロナウイルス感染状況により1学期の教室開催は中止とした。2学期はイベント開催1回、3学期は週1回の通常開催とし、小学校放課後事業推進検討会を実施した。なお、放課後児童クラブとの交流事業は感染拡大防止の観点から実施しなかった。	約2年半ぶりの開催となったため、小学校放課後事業推進検討会で、学校と指導員が運営に関して相互理解を深めることができ、3学期の運営をスムーズに行うことができた。	放課後子ども教室推進事業
取組④	図書館ボランティア育成講座の開催	幼稚園や小学校で集団の子どもたちに絵本の読み聞かせをされている方を対象に、初級読み聞かせ講座を開催した。10月～11月まで全4回	合計14名の参加があった。各講座を通して幼稚園・小学校で読み聞かせ活動をしている方々を育成し、地域での読み聞かせ活動の活発化と図書館資料の利用促進を図ることができた。	図書館事業の一部
取組⑤	市民と関連団体との協働	文化財ウォーキング、福岡河岸記念館での解説事業、子ども対象の郷土の伝承遊びや社会科体験学習、藍染め体験などの成人体験学習等において、ボランティアとの協働事業を開催した。	ボランティアのアイデアによる企画や各種事業への協力、関連団体との協働の体制づくりに貢献した。また、ボランティアとともに文化財資料を活用した地域学習を推進し、市民が文化財と触れ合う機会や入館者数の増加につなぐことができた。	歴史民俗資料館教育普及事業の一部

5. 評価

評価	
指標の達成状況	社会教育活動の支援について、感染対策を行いながら市民の学びの場の確保、学習機会の提供を行うことができた。市民文化祭事業については、各公民館で行っていた文化祭実行委員会を統合し、開催することができた。今後は文化施設との連携等を進め、引き続き、市民の文化活動の発表の場や多様な文化交流の場の提供が途切れることのないよう、市民活動の土台づくりとなる支援を行う。また、市民の学習ニーズや課題解決等を支援するため、ボランティア講座の開催、体験活動の機会提供を行なった。
行政資源の活用	ボランティア講座の開催、体験活動の機会提供を行なった。
おおむね適切	今後は、新たな課題を取り上げ、地域に還元できるような講座企画の検討など、学びを通じたひとつづくり、誰もがいつでもどこでも学ぶことが出来る学びの場づくりのため、社会教育の推進、充実を図っていく。
取組の有効性	放課後子ども事業の充実については、2年半ぶりの開催となったが、2学期のイベント開催では、文京学院大学学生の企画を実施したり、動画を全小学校児童に配信したり、新しい取組みを行うことができた。今後も文京学院大学との連携を進めていく。また、放課後児童クラブとの交流事業再開に向け、学校、児童クラブ、指導員の3者による小学校放課後事業推進検討会を開催する。
おおむね有効	課題としては、学校により指導員が不足しているため、新たな指導員の獲得に向けた取組が必要である。
施策の効果	
効果が得られている	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		社会教育推進事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 01社会教育総務費		
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		教育基本法、社会教育法、ふじみ野市社会教育委員設置条例		
事務事業の内容	事務事業の目的	市民の生涯学習・社会教育の推進を図るため、社会教育法及びふじみ野市社会教育委員設置条例に基づき社会教育委員を委嘱する。社会教育の現代的課題に対し調査研究、教育長からの諮問を受け答申を行なうなど、地域や市民の現状・課題を把握し社会教育行政に反映させることで、地域の教育力の向上を目指す。		
	事務事業の経緯	昭和24年（1949年）6月10日に制定された社会教育法に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動を推進することとして行われている。		
	事務事業の概要	定例会：年4回。教育委員会からの諮問等、必要に応じ専門委員会を設置し、研究調査を行う。 委員構成：15名（学校教育・社会教育・家庭教育関係者、学識経験者、市民公募） 内容：教育委員会教育長諮問にかかる答申、社会教育関係団体の補助金審査、社会教育推進施策の調査研究、人間地区社会教育協議会活動、地域課題解決学習の調査研究等 社会教育委員は、地域や市民の現状・課題を把握し、社会教育行政に助言等することで地域の教育力の向上を図る。 社会教育の専門職である社会教育主事資格の取得のため、主事講習への職員の派遣を行う。		
	令和4年度の主な取組	1 社会教育委員の会議及び専門部会 第1回定例会（6/16（木）14:00～15:30） キックオフミーティング（7/5（火）14:00～16:00） 新任委員を主な対象として実施 第2回定例会（7/19（火）14:00～16:30） 第3回定例会（9/22（水）14:00～17:00） 第4回定例会（3/6（月）14:00～17:00） 2 社会教育主事講習への職員の派遣 令和4年度1名（単位習得）		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.04	0.90	1.00
		人件費	8,266	7,169	7,948
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
人件費計	8,266	7,169	7,948		
事業費	報酬※	252	336	528	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	295	204	339	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	184	279	220	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	131	130	131	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	40	35	112		
支出合計		9,168	8,153	9,278	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		9,168	8,153	9,278	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		80	71	80	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	教育委員会への建議（計画、答申、調査報告）件数		
	説明	地域課題や市民の社会的課題に対する生涯学習・社会教育の役割について、諮問答申、調査報告など教育委員会に助言を行い、行政施策の方針策定の土台とする。		
活動	単位	件		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	1	1	1
	実績値	0	0	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	1 社会教育委員会議 (1) 実施内容 ①社会教育課及び社会教育施設の実施する令和4年度社会教育関連事業計画を説明（第1回会議）。 ②ふじみ野市版コミュニティ・スクールの活動について研修会を実施（第3回会議）。 ③平成29年度ふじみ野市社会教育委員答申で提案された12の施策の進捗状況を報告（第4回会議）。 ④入間地区社会教育協議会等、各種機関が主催する研修会等に参加。 ⑤定例会において、委員の活動報告等、情報交換を行った。 (2) 効果 ①地域で活動する委員の視点から、事業計画及び地域学校協働活動の取組に対し意見をいただき、令和5年度の事業計画策定の参考にすることができた。 ②定例会での情報交換により、各委員が所属している団体等の活動を通して地域課題や社会教育の課題等を事務局及び委員で共有することができた。
	2 社会教育主事講習への職員派遣 (1) 実施内容 社会教育主事講習〔B〕に職員1名を派遣。（令和5年1月13日～2月10日） 生涯学習概論、社会教育経営論、生涯学習支援論の3単位を習得。 (2) 効果 生涯学習・社会教育行政の関する法令及び主要答申、社会教育の役割及び意義、先進地事例等を学び、地域の社会教育のオーガナイザーとしての知識を得ることができた。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	地域社会のつながりや支え合いの希薄化等による地域社会の教育力の低下や家庭教育の必要性が指摘されており、学校・家庭・地域との連携・協働が今後より一層求められる。 社会教育委員の活動は、地域や市民の現代的課題を把握し、生涯学習・社会教育行政の施策に反映させるための助言を行うことであり、今後も会議の内容や実施時期、研究調査の機会等を充実させながら効果的かつ活発な社会教育委員活動を推進していく必要がある。
中長期的方向性	ふじみ野市版コミュニティ・スクールの推進にあたり、学校運営協議会と地域学校協働本部を一体的に取り組む必要があり、地域学校協働本部を支える社会教育行政を推進していくため社会教育行政の専門職である社会教育主事の養成が必要である。
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名	地域学校協働活動推進事業		前年度の方向性 拡充
重点プロジェクト	次代を担う子どもを育むプロジェクト		
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～	
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー	
予算費目	一般会計 10教育費 04社会教育費 01社会教育総務費		
所管部課	教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間	平成21年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等	社会教育法 ふじみ野市地域学校協働活動推進員設置要綱 埼玉県放課後子供教室推進事業実施要綱 ふじみ野市放課後子ども教室事業実施要綱		
事務事業の内容	事務事業の目的	地域学校協働活動は、地域と学校が協働しながら子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを進めることを目的とする。また、放課後子ども教室は「新・放課後子ども総合プラン」に基づき、地域の参画を得ながら放課後の子どもたちの安全安心な居場所を確保するとともに、学習、交流、体験等の活動を通し、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。	
	事務事業の経緯	令和4年度から地域学校協働活動推進員及び地域学校協働本部を設置。モデル校を設定し地域学校協働活動の推進に着手。 国と県が推進する「放課後子供教室推進事業」を受け、平成21年度より開設に着手し、平成27年度に市内全小学校で開設。	
	事務事業の概要	地域と学校をつなぐコーディネーターとして、市内各小中学校に地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）を1名ずつ配置し、地域学校協働本部（地域学校協働ネットワーク）の充実を図るとともに各校での地域学校協働活動を推進する。 放課後子ども教室では、市内全小学生を対象として、放課後に小学校の余裕教室等を活用し、地域の方々が指導者として参画することで、子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化活動を通して、地域住民との交流活動の取組みを推進する。市内各小学校で毎週1回実施している。	
	令和4年度の主な取組	地域コーディネーターの委嘱式及び情報交換会、研修会を開催した。また、学校運営協議会委員として任命されている職員の連絡会議を開催し情報共有を図った。各小中学校の学校運営協議会に出向き、地域学校協働活動の説明を行った。 放課後子ども教室は2学期に各校1回ずつイベント形式で開催し、文京学院大学生が授業の一環として参画した。3学期は感染対策を講じながら通常開催とした。感染防止対策として、1教室当たりの定員を1/2削減、活動内容の工夫（密の回避）、消毒方法などの感染防止マニュアルの作成、感染防止物品の購入等を行った。その他、放課後子ども教室運営委員会及び指導員会議、学校と放課後子ども教室コーディネーター等による調整会議を開催した。	

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.05	0.80	1.24
		人件費	8,346	6,372	9,856
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.89	0.89	0.89
人件費	1,881	2,430	1,696		
人件費計		10,227	8,802	11,552	
事業費	報酬※	1,572	1,369	1,810	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	1,180	962	966	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	61	123	123	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	1,397	3,311	14,634		
支出合計		12,556	12,137	27,389	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	1,179	1,748	9,770
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	1,180
一般財源	11,377	10,389	16,439		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		99	91	142	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	登録人数		
	説明	参加登録人数の把握 令和3年度はコロナウィルス感染拡大に伴い事業を中止したため、実績値は0人となっている。 令和4年度については、3学期より教室を再開したため、3学期の登録人数を実績値とした。		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	259	415	415
	実績値	0	227	
指標 2	指標名	地域学校協働活動モデル校数		
	説明	※令和4年度からの新規指標 令和4年度から地域学校協働活動のモデル校を設定し、徐々に実施中学校区を増やしていく予定である。		
成果	単位	校		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0	3	4
	実績値	0	4	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	1 地域学校協働活動 (1) 地域コーディネーター研修会・情報交換会等 ①委嘱式及び研修会(6/21) ②情報交換会(11/22) ③学校運営協議会委員研修会(1/23) ※学校運営協議会と合同 (2) モデル校区の指定 大井中学校区(大井中・大井小・東原小・東台小 計4校) (3) 令和3年度に引き続き小学校6校の学校運営協議会に出向き、地域学校協働活動の説明を行った。 (駒西小・鶴ヶ丘小・西原小・元福小・亀久保小・さぎの森小) 全小中学校への説明を終了。 (4) 市広報への掲載 令和4年11月号(地域コーディネーターの紹介) (5) 中学校区合同会議への出席(大井中学校区・大井西中学校区) (6) 庁内連絡会議(10/27) 学校運営協議会委員として任命されている職員の連絡会議を実施。
	2 放課後子ども教室 (1) 教室の開催 ①2学期 各校1回ずつイベント形式で開催。(西原小・さぎの森小は参加者が少なかつたため中止) ②3学期 通常開催で実施。感染防止対策として、1教室当たりの定員を1/2に削減、活動内容の工夫(密の回避)、消毒方法などの感染防止マニュアルの作成、感染防止物品の購入等に取り組んだ。 (2) 運営委員会及び指導員会議等 ①放課後子ども教室運営委員会の開催(9/9, 12/2 計2回) ②指導員会議(8/31, 11/16, 1/11, 3/28 計4回) ③学校と放課後子ども教室コーディネーター等による調整会議を開催(2学期に各校1回) (3) 文京学院大学との連携 ①2学期イベントへの参加 学生が授業でイベント企画を考え、指導員と協力して実施した。 ②大学生が作成した動画をYouTubeに投稿し、市内全小学校の児童へ配信を行った。動画の内容は、家で保護者と行える工作や料理、歴史や文化を紹介するもの。再生回数は約680回。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	子どもたちの生きる力を育むため、学校・家庭・地域が連携していくことがより一層必要とされている。また、学校を核としたまちづくりを進めるために地域学校協働活動の推進が必要となっているため、地域コーディネーターを中心とした地域のつながりづくりと人材の発掘、育成に取り組むとともに、放課後子ども教室を含めた地域学校協働活動推進事業として事業を行う。
中長期的方向性	全児童が放課後等をより安全・安心に過ごしながら多様な体験・活動ができる場を提供することが必要となっている。また、放課後子ども教室と放課後児童クラブを一体的に実施するため、より円滑で継続的な教室の運営に向けた取組を進めていく。
継続	「新・放課後子ども総合プラン」(令和元年度～令和5年度)に基づき、教育委員会と福祉部局の更なる連携体制の確立並びに特別な配慮を必要とする児童への対応に関する方策や、安全・安心な教室運営の視点から運営方法の最適化も視野に入れ、一層の拡充を図っていく。

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		二十歳の集い事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 01社会教育総務費		
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		国民の祝日に関する法律		
事務事業の内容	事務事業の目的	二十歳の集いは、二十歳を迎えた青年の新しい門出を祝福して、大人としての自覚を促すとともに、家族や友人達との絆を再認識し、また将来に向けて大きく成長してほしいということを願う大切な行事である。		
	事務事業の経緯	昭和23年に国民の祝日に関する法律が施行され、第2条で「成人の日」として大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますことが定められた。全国的に成人に達した人を祝う式典として開催されている。令和4年4月1日に「民法の一部を改正する法律」が施行され、成人年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、事業の名称を「二十歳の集い」に改めた。		
	事務事業の概要	二十歳に達した青年男女の新しい門出を大きな単位で喜びを分かち合い、祝福し祈念するあたたかさのある「二十歳の集い」を実施する。また、中学校時代の恩師を来賓に招くことで、大人としての意識を深める。		
	令和4年度の主な取組	参加者見込人数が、会場の定員の半数となるよう3部制にて実施した。 令和5年ふじみ野市二十歳の集い 令和5年1月9日（月） 成人の日 実施 【当日プログラム】 オープニング祝い太鼓、ふじみ野市長のメッセージ、ふじみ野市議会議長のメッセージ、来賓及び恩師紹介、二十歳のメッセージ（3部、各1名）、祝電披露 【参加者数】 第1部（福岡中学校区・花の木中学校区：277人）、第2部（葦原中学校区・大井中学校区：272人）、第3部（大井西中学校区・大井東中学校区：271人）、総合計 820人		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.79	0.94
		人件費	6,279	7,488
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		6,279	7,488	7,472
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	116	105	77
	委託料	1,079	897	0
	使用料及び賃借料	275	275	429
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	105	117	116	
支出合計		7,854	8,882	8,094
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		7,854	8,882	8,094
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		69	78	70

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	出席者数		
	説明	二十歳の集いに参加しての満足度としたいが、把握困難であるため出席者数とした。		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	1,352	1,352	1,352
	実績値	837	820	
指標 2	指標名	出席率		
	説明	二十歳の集いに参加しての満足度としたいが、把握困難であるため参加率とした。		
活動	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	60.00	65.00	65.00
	実績値	64.09	66.56	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>二十歳に達した青年の門出を市民全体で祝い励ますとともに、主体的に行動するふじみ野市民としての自覚と今後の積極的な社会参加を促し、夢と希望と活力あふれる未来のふじみ野を創造するため、二十歳の集いを実施する。</p> <p>二十歳の集いは中学校時代の同級生が同じ場所に集うということで、疎遠になってしまった旧友と再会する機会を提供し、同時に成人となった青年の新しい門出を祝福すること、また、家族や友人達との絆を再認識し、将来に向けて大きく成長してほしいとすることを願う大切な催しである。</p> <p>本市では、二十歳の集い参加者の代表者に「二十歳のメッセージ」として、これまで育てていただいた方々への感謝の気持ちや大人としての自覚や決意を披露していただき、多くの仲間と共感する場を提供している。</p> <p>令和4年度は令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため3部制での実施としたほか、来賓（市議会議員、各自治組織会長）への案内や入場時間を利用した祝い太鼓の演奏を実施した。2次元バーコードによるARフォトフレームの配布及び屋外にフォトコーナーを設置した。</p>
	<p>内容【プログラム】</p> <p>司会：市職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング祝い太鼓 ・主催者あいさつ（ふじみ野市長） ・来賓あいさつ（ふじみ野市議会議員） ・来賓、恩師紹介 ・二十歳のメッセージ（3部とも各1名） ・祝電（埼玉県知事他） <p>招待状発送者数 1,232通</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	20歳という節目に達した方々の新しい門出を祝福し、喜び分かち合えるイベントとなるよう進め方の調査、研究を行ない、事業の効率化も検討していく。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		社会教育関係団体育成事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 01社会教育総務費		
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成17年～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市社会教育関係団体補助金交付要綱、社会教育法第10条		
事務事業の内容	事務事業の目的	社会教育法第10条に規定する社会教育関係団体の健全な育成及び社会教育の振興による市民文化の醸成を図る。		
	事務事業の経緯	合併前の上福岡市教育委員会では、平成15年度に「上福岡市社会教育関係団体補助金交付要綱」と「上福岡市教育委員会の後援等の承認に関する要綱」を定め、事業を推進してきた。合併後は「ふじみ野市社会教育関係団体補助金交付要綱」に基づき事業を推進している。平成27年度からPTA連合会補助金は学校教育課へ移管となった。		
	事務事業の概要	市内社会教育関係団体を統括する文化団体連合会に対し、補助金を交付し、取組を奨励している。令和3年度に文化団体連合会より解散する旨の申し出があった。		
	令和4年度の主な取組	ふじみ野市社会教育関係団体補助金交付要綱に基づき、市全体を統括している団体（統括団体）からの申請により補助金を交付する。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.17	0.11
		人件費	1,352	877
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		1,352	877	875
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	0	0	0
	委託料	0	0	0
	使用料及び賃借料	0	0	0
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	0	0	338
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	0	0	1	
支出合計		1,352	877	1,214
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源	1,352	877	1,214	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		12	8	11

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	補助金交付件数		
	説明	※令和4年度からの新規指標 令和3年度に文化団体連合会が解散したことにより現在補助対象となる団体はないが、新たな統括団体が結成され、申請があった場合は、その申請に基づき補助金を交付した件数を指標とする。		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	1	1	1
	実績値	0	0	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>ふじみ野市社会教育関係団体補助金交付要綱に基づき、市全体を統括している団体（統括団体）からの申請により補助金を交付する。</p> <p>令和3年度に文化団体連合会が解散したことにより現在補助対象となる団体はないが、新たな統括団体が結成され、申請があった場合は、その申請に基づき補助金を交付する。</p> <p>この事業により、社会教育関係団体の健全な育成及び社会教育の振興による市民文化の醸成を図ることができる。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>社会教育関係団体の健全な育成及び社会教育の振興による市民文化の醸成を図るため、その「統括団体」に対し、補助金を交付している。</p> <p>現在、文化・スポーツ振興課文化振興係が市の文化施策を担っており、文化団体への支援の在り方について検討する必要がある。</p>
中長期的方向性	<p>また、社会教育の役割として地域課題の解決に資する学びや団体の育成が課題になっていることから、補助制度の在り方についても検討していく必要がある。</p>
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名	大井中央公民館管理運営事業			前年度の方向性 拡充
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目	一般会計 10教育費 04社会教育費 03公民館費			
所管部課	教育部 大井中央公民館	評価責任者	内田徳子	
事務事業期間	平成17年度～	評価日	令和5年6月1日	
個別計画 根拠法令・条例等	社会教育法、ふじみ野市立公民館条例、ふじみ野市立公民館条例施行規則、ふじみ野市教育振興基本計画アクションプラン、ふじみ野市文化・スポーツ振興条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	地域の拠点施設として広く開放し、社会教育の発展と推進を図るとともに安全な施設提供を目的とする。		
	事務事業の経緯	社会教育法に基づき教育活動を実施する上で、安心して学習できる施設の提供を行うため管理運営に努める。		
	事務事業の概要	社会教育法第20条及び第21条第1項の規定に基づき公民館を運営すると共に、地域の拠点とし活用するため、施設の維持管理と運営を行う。		
	令和4年度の 主な取組	【公民館運営審議会の開催】 社会教育法第29条及びふじみ野市公民館条例第12条の規定に基づき、ふじみ野市公民館運営審議会を設置し、館長の諮問に応じ、公民館運営及び各種事業の企画実施に係る審議を行っている。 令和4年度は3回開催（令和4年6月24日、10月26日、令和5年3月30日）		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.40	0.20	0.00
		人件費	3,180	1,593	0
	再任用職員	従事人数(人)	0.50	0.30	0.00
		人件費	2,530	1,582	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	1.02	0.88	0.00
		人件費	2,206	4,358	0
人件費計		7,916	7,533	0	
事業費	報酬※	3,266	3,277	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	368	379	0	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	338	267	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	65	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	1,004	1,035	0		
支出合計		10,751	8,133	0	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	14	15	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	462	398	0
一般財源		10,275	7,720	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		90	68	0	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	公民館利用者延べ人数		
	説明	公民館を利用した延べ人数。公民館活動や事業など公民館が市民の活動の場となっているかの指標。 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策により施設の臨時休館、利用制限を行ったことで、大幅な利用者数の減少となった。 令和3年度は建て替え工事のため休館。		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	
指標 2	指標名	公民館施設(研修棟)の利用率		
	説明	施設が有効に利用されているかの指標(利用実区分数÷利用可能区分数×100)。 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策により施設の臨時休館、利用制限を行ったことで、大幅な利用率の減少となった。 令和3年度は建て替え工事のため休館。		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0.00	0.00	0.00
	実績値	0.00	0.00	
指標 3	指標名	公民館施設(ホール)の利用率		
	説明	施設が有効に利用されているかの指標(利用実区分数÷利用可能区分数×100)。 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策により施設の臨時休館、利用制限を行ったことで、大幅な利用率の減少となった。 令和3年度は建て替え工事のため休館。		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0.00	0.00	0.00
	実績値	0.00	0.00	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【公民館運営審議会の開催】 令和3年度については、ふじみ野市公民館運営審議会を年3回開催した。</p> <p>●各回の開催日と主な議題</p> <p>第1回 令和4年6月24日開催 ・公民館事業進捗状況について</p> <p>第2回 令和4年10月26日開催 ・公民館事業進捗状況について</p> <p>第3回 令和5年3月30日開催 ・公民館事業進捗状況と取り組みについて／・公民館事業計画について</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
完了	大井中央公民館建て替えに伴う休館中における、公民館利用者の活動可能施設等について適宜相談に応じる等、公民館利用者の活動が損なわれることのないよう努めた。
中長期的方向性	
完了	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		大井中央公民館分館管理事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 03公民館費			
所管部課		教育部 大井中央公民館		評価責任者	内田徳子
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		社会教育法、ふじみ野市立公民館条例、ふじみ野市立公民館条例施行規則、ふじみ野市教育振興基本計画アクションプラン、ふじみ野市文化・スポーツ振興条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	分館の維持管理を行ない、社会教育施設として活動の場を提供することを目的とする。			
	事務事業の経緯	地域に根ざした社会教育活動を実施するため、分館長を中心に施設の管理運営に努める。			
	事務事業の概要	大井中央公民館の分館施設の維持管理運営を行なう。			
	令和4年度の主な取組	【分館長会議】年4回開催 令和4年4月6日開催 分館委託金について／分館利用団体について／消防計画に基づく自衛消防訓練等について 令和4年7月5日開催 令和5年度からの施設運用（案）について 令和4年11月18日開催 分館委託金の取り扱いについて／消防計画に基づく自衛消防訓練等について 令和5年2月17日開催 分館管理委託金決算報告書の提出について／自衛消防訓練、自主検査チェック票について			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.30	0.00
		人件費	795	2,390	0
	再任用職員	従事人数(人)	0.50	0.70	0.00
		人件費	2,530	3,690	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	1.63	0.43	0.00
	人件費	0	595	0	
人件費計		3,325	6,675	0	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	2,912	5,846	0	
	委託料	2,910	3,008	0	
	使用料及び賃借料	1,311	1,311	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	773	774	0		
支出合計		11,231	17,019	0	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	55	82	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		11,176	16,937	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		98	148	0	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	分館利用者数		
	説明	分館を利用した延べ人数。分館が市民の活動の場となっているかの指標。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により施設の臨時休館、利用制限を行ったことで、大幅な利用者数の減少となった。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により活動自粛の影響がありながらも、大井中央公民館の建て替えによる休館の影響を受け、前年度と比較し利用者数の回復が見られた。		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	83,000	85,000	0
	実績値	46,639	0	
指標 2	指標名	分館施設利用率		
	説明	地域の公民館分館がどれだけ有効に利用されているかの指標（利用区分数÷利用可能区分数×100）。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による施設の臨時休館や利用制限等により大幅な利用率の減少となったが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による活動自粛の影響がありながらも、大井中央公民館休館の影響を受け、前年度と比較し利用率の回復が見られた。		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	42.00	45.00	0.00
	実績値	26.60	0.00	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	地域に根ざした社会教育活動を実施するため、分館長を中心に施設の管理運営につとめ、分館利用者に向けた施設の提供をした。
	■令和4年度分館利用状況（令和5年3月末現在）
	(1)分館の年間利用件数 合計 件
	(2)分館の年間利用人数 合計 人
	（内訳）
	①旭分館 件 人
	②大井分館 件 人
	③苗間分館 件 人
	④亀久保分館 件 人
	⑤鶴ヶ岡分館 件 人
	⑥三角分館 件 人
	⑦亀久保西分館 件 人
	⑧江川分館 件 人
	⑨学園分館 件 人
	⑩三保野分館 件 人
⑪武蔵野分館 件 人	
⑫亀居分館 件 人	
⑬原分館 件 人	
⑭緑ヶ丘分館 件 人	
⑮八丁分館 件 人	
⑯赤土原分館 件 人	
⑰亀久保南分館 件 人	
⑱ふじみ野分館 件 人	

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
完了	公民館条例の改正により令和4年度をもって分館を廃止。令和5年度からは普通財産の位置付けになるとともに、地域活動施設（「会館」）として協働推進課の所管により引き続き地域利用に供する施設として市が管理を行う。
中長期的方向性	
完了	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		市民文化祭事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 03公民館費			
所管部課		教育部 大井中央公民館		評価責任者	内田徳子
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		社会教育法、ふじみ野市教育振興基本計画アクションプラン、ふじみ野市文化・スポーツ振興条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	一般市民を対象に、地域文化の発展と創造のための文化活動の機会を提供し、団体、サークルや市民個人も含め学習活動の成果発表の場とする。 地域住民のふれあいの場として、参加団体の連帯及び親睦と交流を図るため、地域に開かれ、親しみのもてる公民館を目指す。			
	事務事業の経緯	ふじみ野市民文化祭は、毎年10月から11月にかけて【おおい会場】、【かみふくおか会場】の2つに分かれて行っていたが、令和2年度からふじみ野市民文化祭を1本化し、ふじみ野市全体で行っている事業として市内全域での取り組みを進めている。 西公民館まつりは、西公民館創設以来継続実施してきている。			
	事務事業の概要	文化祭は、例年10月から11月にかけて行われている事業で、9つの部門から役員を選出し、実行委員会を組織して行っている。 西公民館まつりは、近隣町内会、自治会、商店会、子ども会育成会、西公民館利用者懇談会などに参加を呼びかけ、実行委員会方式により実施している。			
	令和4年度の主な取組	第18回市民文化祭を9部門【作品展示、芸能（洋舞）、芸能（邦舞）、カラオケ、ミュージックフェスティバル、ふれあい、子ども劇場、青年祭、子どもフェスティバル】により10月8日（土）から11月6日（日）まで実施した。 第33回西公民館まつりを9月10日（土）及び9月11日（日）に実施した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.80	1.60
		人件費	14,307	12,744
	再任用職員	従事人数(人)	0.90	0.40
		人件費	4,554	2,109
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.13	0.13
	人件費	247	0	
人件費計		19,108	14,853	14,741
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	0	0	0
	委託料	0	2,833	6,710
	使用料及び賃借料	0	0	0
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	0	0	0	
支出合計		18,861	17,686	21,451
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		18,861	17,686	21,451
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		165	155	186

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>第18回市民文化祭を9部門【作品展示、芸能（洋舞）、芸能（邦舞）、カラオケ、ミュージックフェスティバル、ふれあい、子ども劇場、青年祭、子どもフェスティバル】により10月8日（土）から11月6日（日）まで実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月8日（土） 洋舞祭 参加団体 3団体 入場者数 316人 ・10月9日（土） 芸能発表会（洋舞） 参加団体 17団体 入場者数 448人 ・10月16日（日） ミュージックフェスティバル 参加団体 15団体 入場者数 426人 ・10月21日（金）～23日 作品展示（前期・上福岡西公民館） 参加団体 21団体 入場者数 1,465人 ・10月21日（金）～23日 作品展示（前期・ステラ・イースト） 参加団体 12団体 入場者数 711人 ・10月23日（日） カラオケ 参加団体 71個人 入場者数 300人 ・10月23日（日） ふれあい（お茶席） 参加団体 2団体 入場者数 132人 ・10月28日（金）～30日（日） 作品展示（後期・上福岡西公民館） 参加団体 18団体 入場者数 1,162人 ・11月3日（木） ふれあい（囲碁・将棋大会） 参加団体 1団体 参加者 28人 ・11月3日（木） 子ども劇場 参加団体 1団体 入場者数 294人 ・11月6日（日） 青年祭 参加団体 10団体 入場者数 101人 ・11月3日（日） 子どもフェスティバル 参加団体 10団体 入場者数 866人 <p>第33回西公民館まつりを9月10日（土）及び9月11日（日）に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場 上福岡西公民館 ・入場者数 9月10日（土）224人 9月11日（日）1,365人 <p>市民による実行委員会に委託し市民が主体となった事業として確実に定着している中、参加団体（個人を含め）の拡大による事業の充実と、実行委員会の事業運営力の更なる向上を図り、市全体にアピールし地域文化の発展につなげていく必要がある。また、市と市民、市民相互の協働事業として、市民自らが学びの場と機会を作り上げるという教育力の向上に役立っている事業であるため、今後も市民の文化活動の一環を成す事業として実施する予定である。</p>
------------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>一般市民及び公民館活動サークルが普段の活動の発表の場として、文化祭への参加をすることを目標に活動するとともに、見に来た人たちが興味を持ち、サークルに入り活動をするなどして文化の発展に寄与することができることから今後も継続して実施することが必要である。</p> <p>令和4年度は、これまで上福岡会場及び大井会場それぞれ実行委員会形式で実施していた市民文化祭を、ふじみ野市として一つの実行委員会形式で実施した。</p>
中長期的方向性	<p>令和5年度は、大井中央公民館が廃止され、上福岡西公民館1館となるため、引き続き一つの実行委員会として行う市民文化祭として統合した運営が求められる。</p>
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		地域文化振興事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 03公民館費		
所管部課		教育部 大井中央公民館	評価責任者	内田徳子
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		社会教育法、ふじみ野市教育振興基本計画アクションプラン、ふじみ野市文化・スポーツ振興条例		
事務事業の内容	事務事業の目的	地域文化の発展と創造のための文化活動の機会提供、魅力のある生の芸術等の鑑賞機会提供による地域文化に寄与する。また、地域住民の実際生活に即した教育、学術及び文化に関する事業を行い、より地域社会に密着した文化を築き上げていく。		
	事務事業の経緯	昭和55年の大井中央公民館新築により大ホールが設置された当時から「舞台芸術鑑賞会」としてホールを利用した事業を開催している。また、6月から1月の毎月第3金曜日に「公民館サロン」として「大井寄席」を開催している他、平成28年度より市出身の落語家による「地元落語家応援寄席」も実施している。囲碁将棋大会は昭和47年から開催している。		
	事務事業の概要	より多くの市民に公民館を知ってもらうために、ホールを活用した舞台芸術鑑賞事業（演劇・音楽）、公民館サロンを実施している。日頃のサークル活動の実践の場、交流する場を提供することを目的に囲碁将棋オセロ大会を実施している。		
	令和4年度の主な取組	①舞台芸術鑑賞会：実行委員会方式による企画・運営で、和太鼓によるコンサートを1回行った。 ②公民館サロン：舞台芸術を少人数で気軽に味わってもらう催しとして、「地元落語家応援寄席」及び「大井寄席」を9回行った。 ③新春落語会：日本の伝統文化に触れてもらうため、1月に落語会を開催した(上福岡西公民館) ④囲碁将棋オセロ大会：子ども将棋大会、オセロ大会、囲碁大会、将棋大会を行った。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.55	0.75
		人件費	4,372	5,974
	再任用職員	従事人数(人)	0.30	0.10
		人件費	1,518	528
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.13	0.13
	人件費	247	0	
人件費計		6,137	6,502	6,467
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	37	5	46
	委託料	966	992	1,020
	使用料及び賃借料	27	34	852
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	289	370	388	
支出合計		7,209	7,903	8,773
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		7,209	7,903	8,458
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		63	69	73

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	舞台芸術鑑賞会入場者数		
	説明	舞台芸術鑑賞会の入場者数（年1回実施）		
成果	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	870	870	0
	実績値	135	247	
指標 2	指標名	公民館サロン入場者数		
	説明	公民館サロンとして実施している「地元落語家応援寄席」及び「大井寄席」の入場者数（年9回実施）		
成果	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	660	660	0
	実績値	80	158	
指標 3	指標名	応募者数（囲碁将棋・オセロ大会）		
	説明	多くの市民のニーズに合致した魅力的な内容であれば応募者も多くなり満足度につながるため成果指標としたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染防止対策により参加定員数を削減して開催した。		
成果	単位	回		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	130	130	0
	実績値	0	93	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>1 舞台芸術鑑賞会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和5年3月5日（日） ・内容 和太鼓暁コンサート「暁の音」 ・出演団体 和太鼓 暁 ・会場 ふじみ野ステラ・イーストホール ・入場者数 247人 <p>2 公民館サロン</p> <p>(1) 地元落語家応援寄席</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和4年5月20日（金） ・出演者 立川志の太郎 ・会場 大井総合福祉センター ・入場者数 18人 <p>(2) 大井寄席（大井総合福祉センターで実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日、出演者及び入場者数 令和4年6月17日（金） 柳家 緑太 18人 令和4年7月15日（金） 古今亭 始 15人 令和4年8月19日（金） 春風亭一蔵 19人 令和4年9月16日（金） 柳家 圭花 12人 令和4年10月21日（金） 柳家 あお馬 19人 令和4年11月18日（金） 金原亭 馬久 18人 令和4年12月16日（金） 春風亭 一花 20人 令和5年2月17日（金） 三遊亭 ふう丈 19人 <p>3 囲碁将棋オセロ大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども将棋オセロ大会 開催日 令和4年5月28日（土） 会場 ふじみ野ステラ・イースト 参加者 子ども将棋大会 22人 オセロ大会 32人 ・一般囲碁将棋大会 開催日 令和4年5月29日（日） 会場 ふじみ野ステラ・イースト 参加者 囲碁大会 24人 将棋大会 15人 <p>4 新春落語会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和5年1月27日（金） ・会場 上福岡西公民館地下ホール ・入場者数 68人
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	実行委員会方式の「舞台芸術鑑賞会」、開催が定着している「公民館サロン」とともに、公民館利用者に芸術を身近に感じて関心を高めてもらう格好の事業となっている。また、「公民館サロン」の「大井寄席」については、出演者自身の横のつながりを核とした継続的な実施が確保できることで、出演者間での「大井寄席」の評判や、高座の質の向上を維持する等、多方面に継続実施の効果が反映されている。
中長期的方向性	今後も市民ニーズに合致した、質の高い芸術を鑑賞できる機会を提供できるよう事業に取り組んでいく。
継続	また、上福岡西公民館が担当している「新春落語会」及び「囲碁将棋オセロ大会」については、地域コミュニティの形成や地域課題に対応した学習を展開できることから、今後も事業の継続は必要である。

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		高齢者教育事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 03公民館費		
所管部課		教育部 大井中央公民館	評価責任者	内田徳子
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		社会教育法、ふじみ野市教育振興基本計画アクションプラン、ふじみ野市文化・スポーツ振興条例		
事務事業の内容	事務事業の目的	高齢者に公民館事業を通じて、学習の機会を提供し、生涯学習を支援する。		
	事務事業の経緯	大井中央公民館と上福岡公民館で「もくせい大学」・「ことぶき大学」をそれぞれ実施していたが、平成30年度に3館合同で準備委員会を設立し、事業を一本化し、内容を見直したうえで、令和元年度から3館合同の高齢者大学「昭和100年大学」を開講することとなった。		
	事務事業の概要	高齢者がいつまでも元気に社会参加し、豊かな人生を送ることができるよう幅広い学習の場を提供するとともに、その学習の成果を社会や地域に活かす事ができるように公民館が一本化して支援していく。大井中央公民館がくらしの生活学部（くらし学科・生活の知識学科） 上福岡西公民館が元気健康学部（健康のための教養学科・健康のための体育学科・健康のための声楽学科）、くらしの中の芸術学部（陶芸学科・美術学科）をそれぞれ年間を通して開講している。また、各学部年1、2回「昭和100年大学」の受講生並びに市内在住在勤者を対象に合同公開講座を開講している。		
	令和4年度の主な取組	①くらしの生活学部・元気健康学部・くらしの中の芸術学部 くらし学科・生活の知識学科毎月1回（8月、1月を除く）開設し、14回の事業を実施した。 教養学科・体育学科・声楽学科毎月1回（8月、1月を除く）開設し、21回の事業を実施した。 陶芸学科・美術学科毎月1、2回（8月を除く）開設し、20回の事業を実施した。 ②合同講座を7月、2月に開設し、5回の事業を実施した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.30	0.00	1.40
		人件費	10,333	0	11,128
	再任用職員	従事人数(人)	0.70	0.00	0.60
		人件費	3,542	0	3,036
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.13	0.00	0.13
		人件費	247	0	0
人件費計		14,122	0	14,164	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	61	77	119	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	8	4	880	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	869	828	1,169		
支出合計		14,813	909	16,332	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		14,813	909	16,332	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		130	8	141	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	講座実施回数		
	説明	昭和100年大学で実施する講座の回数。		
成果	単位	回		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	60	60	0
	実績値	55	67	
指標 2	指標名	応募率		
	説明	受講者のニーズに合致した魅力的な内容であれば、応募率も高くなり受講者の満足度にもつながるため、成果指標とした。		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	60	60	0
	実績値	198	63	
指標 3	指標名	出席率		
	説明	受講者のニーズに合致した魅力的な内容であれば、出席率も高くなる。受講者の満足度にもつながるため、成果指標とした。		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	70	70	0
	実績値	51	43	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	【令和4年度高齢者教育事業について】 高齢者一人ひとりが生涯にわたって学ぶことにより、豊かな人生を送ることができるよう幅広い学習の場を提供するとともに、その学習の成果を地域づくりに活かすことができるよう支援する。 新型コロナウイルス感染防止対策により、縮小して実施。 (1) 昭和100年大学くらしの生活学部くらし学科 月1回第2火曜日 10時～正午 定員20人(応募者37人) 全6回 年間延べ人数 93人 (2) 昭和100年大学くらしの生活学部生活の知識学科 月1回第4木曜日 10時～正午 定員20人(応募者50人) 全6回 年間延べ人数 108人 (3) 昭和100年大学元気健康学部健康のための教養学科 月1回第2火曜日 14時～16時 定員40人(応募者65人) 全7回 年間延べ人数 196人 (4) 昭和100年大学元気健康学部健康のための体育学科 月1回第2木曜日 14時～16時 定員40人(応募者49人) 全7回 年間延べ人数 203人 (5) 昭和100年大学元気健康学部健康のための声楽学科 月1回第3火曜日 14時～16時 定員40人(応募者49人) 全7回 年間延べ人数 211人 (6) 昭和100年大学くらしの中の芸術学部陶芸学科 水曜日 10時～正午 定員16人(応募者35人) 全10回 年間延べ人数 171人 (7) 昭和100年大学くらしの中の芸術学部美術学科 水曜日 10時～正午 定員16人(応募者19人) 全9回 年間延べ人数 115人 昭和100年大学全学部学科の受講生並びに受講生以外の市内在住在勤の一般市民を対象として講座を行う。(令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止対策により受講生のみ) (3) 昭和100年大学 合同講座 年5回 定員192人 年間延べ人数 320人
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	超高齢化社会を背景に、高齢者の健康維持や居場所づくり、生きがいつくり、又地域のコミュニティー育成に貢献する事業であるとともに、高齢者の学習意欲を満たし、心身ともに豊かな生活の実現を目的とする、現代社会に必須の事業であるため、今後も参加対象者のニーズを把握した学習機会の提供に取り組む。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		青少年教育事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 03公民館費		
所管部課		教育部 大井中央公民館	評価責任者	内田徳子
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		社会教育法、ふじみ野市教育振興基本計画アクションプラン、ふじみ野市文化・スポーツ振興条例		
事務事業の内容	事務事業の目的	子どもたちが多様な学びを経験する機会を得ることにより、郷土を愛する手立てとなることを目的とし、豊かな地域社会の創造発展を図るため、青少年を対象とした生涯学習を展開する。		
	事務事業の経緯	学校週5日制対応事業として小・中学生を対象に事業を開設。子どもたちが地域の中で健全かつ心豊かな人間関係を育むための学習機会の提供を目的に、公民館利用団体と連携した各種教室や文京学院大学等と連携した野外活動体験等、各種プログラムを企画実施し、市民より好評を博してきた。平成30年度は6教室を毎月定期的で開催、夏休みには親子チャレンジ教室を実施している。		
	事務事業の概要	小学生（1年生～3年生）を対象に、水彩画・折り紙・硬筆と筆ペン・リズム体操教室の4教室を開設している。また、夏休みには親子チャレンジ教室を実施している。 他に上福岡西公民館主催事業として、子どもまつり、ふくっ子クラブ、わんぱく教室、はとぼっぼ教室、小学校3年生公民館体験教室、家庭教育セミナー、子どもひろばを実施している。		
	令和4年度の主な取組	①子どもの城教室：地域や仲間と交流を図りながらさまざまなことを学習できる4教室を開設し、36回事業を行った。 ②夏休み親子チャレンジ教室：「万華鏡の仕組みと作り方」を1回行った。 ③子どもまつり：令和4年10月2日（日）に実施した。 ④ふくっ子クラブ：9回開催 ⑤わんぱく教室：9回開催 ⑥はとぼっぼ教室：春と秋の2期、各6回開催 ⑦小学校3年生公民館体験教室：5月に開催し、小学校3校が参加した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.30	1.50	1.50
		人件費	10,333	11,948	11,922
	再任用職員	従事人数(人)	0.40	0.20	0.20
		人件費	2,024	1,055	1,012
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.94	0.13	0.13
	人件費	1,641	0	0	
人件費計		13,998	13,003	12,934	
事業費	報酬※	1,394	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	63	52	73	
	委託料	0	274	274	
	使用料及び賃借料	69	287	510	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	1,385	765	927		
支出合計		15,268	14,381	14,718	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		15,268	14,381	14,718	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		133	126	127	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	事業実施回数		
	説明	教室や内容等、時代のニーズに合致した事業の展開が把握できるため成果指標とした。		
成果	単位	回		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0	0	0
	実績値	67	36	
指標 2	指標名	応募率（募集人数／応募者数）		
	説明	受講者のニーズに合致した魅力的な内容であれば、応募率も高くなり受講者の満足度につながるため成果指標とした。		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	100	100	0
	実績値	131	62	
指標 3	指標名	出席率		
	説明	受講者のニーズに合致した魅力的な内容であれば、出席率も高くなり受講者の満足度につながるため成果指標とした。		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0	0	0
	実績値	83	62	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	【令和4年度青少年教育事業について】 学校週5日制が試行的に実施された平成4年度から、地域における子どもの居場所づくりとして、遊びや学びの機会を提供するとともに、学校や地域と連携して、人との交流やコミュニケーションを経験できる行事やイベントなどを開催し、青少年の自主的な社会参加を促進している。小学生を対象に、子どもたちが地域の中で、健全かつ心豊かな人間関係を育むための学習の機会を提供するため、4教室を毎月定期的に開催している。平成30年度から新たな事業として、小学生の親子を対象とした夏休み親子チャレンジ教室を開催している。
	(1) 子どもの城教室 令和4年度は4教室を開設し、受講者は36人。年間受講者は延べ253人。（開設期間：令和4年6月～令和5年3月 毎月基本第2土曜日午後） ①水彩画教室（小学1年生～3年生）12人 講師：水彩コスモス ②折り紙教室（小学1年生～3年生）8人 講師：二輪草 ③硬筆と筆ペン教室（小学1年生～3年生）10人 講師：四季彩会 ④フラダンス教室（小学1年生～3年生）6人 講師：新井 恵氏 (2) 夏休み親子チャレンジ教室 ①「万華鏡の仕組みと作り方」 令和4年7月22日（金）午前10時～正午（小学生親子10組）20人 講師：ガリレオアカデミー (3) ふくっ子クラブ 年間9回開催 定員30人 延べ374人参加 (4) わんぱく教室 年間9回開催 定員30人 延べ329人参加

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	「子どもの城」は、対象となる小学生の学校、年齢を超えた交流をベースに高い学習効果を生み出すとともに、講師をボランティア的に務めている公民館利用者のモチベーションアップにつながるものとして、公民館のみならず市民の教育力の向上につながる重要な価値を持つ事業である。また、事業実施の過程で学習成果の発表の場（市民文化祭など）を設け、受講者の家族等と意思の疎通を図ることができるなど、さまざまな可能性を持つ事業となっている。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		成人教育事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目 一般会計 10教育費 04社会教育費 03公民館費				
所管部課		教育部 大井中央公民館	評価責任者	内田徳子
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等 社会教育法、ふじみ野市教育振興基本計画アクションプラン、ふじみ野市文化・スポーツ振興条例				
事務事業の内容	事務事業の目的	地域課題や生活課題の学習とともに、さまざまな体験を重ねることで、心身ともに充足し、住んで良かったといえる地域づくりを目指す。また、豊かな地域社会の創造発展を図るため、成人を対象とした生涯学習を展開する。		
	事務事業の経緯	昭和48年度の「大井町公民館年間計画」ですでに「青少年教育の充実」や「芸術文化活動の高揚」などとともに「成人教育の充実」が掲げられ、「家庭教育学級」や「文化講座」などが実施されている。また、昭和62年社会教育施設として西公民館が開設され、市民の生涯学習を進めるため成人を対象とした各種教室等を開催している。		
	事務事業の概要	地域分館コミュニティ事業、人権講座、子育て講座、日本語教室、趣味講座、成人教育教室（4講座）障がい者青年学級、にほんご教室、日本語ボランティア養成講座、家庭教育セミナー、公民館講座、女性セミナー		
	令和4年度の主な取組	成人教育の充実を目的に、地域分館コミュニティ事業（2回）、人権講座（1回）、子育て講座（2回）、日本語教室（83回）、趣味講座（4回）、成人教育講座（9回）、人権・平和講座（3回）、防災講座（4回）、障がい者青年学級（10回）、にほんご教室（24回）、日本語ボランティア養成講座（3回）、家庭教育セミナー（4回）、公民館講座（6回）、女性セミナー（8回）など市民ニーズに合致した魅力ある講座を開催。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.85	1.05
		人件費	6,756	8,364
	再任用職員	従事人数(人)	0.70	0.50
		人件費	3,542	2,636
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.13	0.13
	人件費	247	0	
人件費計		10,545	11,000	10,876
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	72	140	151
	委託料	0	0	0
	使用料及び賃借料	0	134	303
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	444	843	1,360	
支出合計		10,814	12,117	12,690
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		10,814	12,117	12,690
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		95	106	110

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	講座回数		
	説明	多様な講座が開催されることで、対象者の趣味や生活パターンに応じた受講の機会が増えるので成果指標とした。		
成果	単位	回		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0	0	0
	実績値	84	165	
指標 2	指標名	応募率（募集人数／応募者数）		
	説明	受講者のニーズに合致し魅力的な講座であれば応募率も高くなり満足度につながるので成果指標とした。（日本語教室は除く）		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	70	70	0
	実績値	91	60	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【令和4年度成人教育事業について】</p> <p>(1) 地域分館コミュニティ事業 令和4年7月13日水曜日 学園分館 参加者数 19人 講師 市保健センター職員 令和4年10月20日木曜日 八丁分館 参加者数 11人 講師 市高齢福祉課職員</p> <p>(2) 人権講座 令和5年2月18日土曜日 大井総合支所ゆめぼると 参加者数 6人 講師 違法・有害情報相談センター</p> <p>(3) 子育て講座 令和4年8月23日火曜日 参加者数 親子2組4人 「親子で楽しくUFOフリスビーをつくろう」 令和5年2月4日土曜日 参加者数 親子5組12人 「自律神経を整える耳つぼ講座」 講師：ふじみ野耳専門サロンPatio主宰内山奈津子氏</p> <p>(4) 日本語教室 令和4年4月から令和5年3月 毎週月・木曜日 年間利用者数 延べ561人</p> <p>(5) 趣味講座 令和4年8月27日土曜日・令和4年9月24日土曜日 筋膜リリースで体スッキリ！！ 参加者数 延べ34人 令和5年2月18日土曜日 シャカシャカキーホルダー 参加者数 4人 令和5年2月28日火曜日 やさしいストレッチ&筋膜リリース第2弾 参加者数 18人</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	学習や交流の機会を求めている市民に、その機会を提供することは公民館の大きな役割である。市民ニーズは多様であり、それらを的確に捉え学習機会を提供することにより市民全体の教育力向上につながるものとして、今後も継続して実施していく。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		市民文化祭事業（かみふくおか会場）		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー			
予算費目					
所管部課		教育部 上福岡公民館	評価責任者	内田 徳子	
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日	
個別計画 根拠法令・条例等		社会教育法、ふじみ野市教育振興基本計画アクションプラン、ふじみ野市文化・スポーツ振興条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	団体、サークルや市民個人をも含め学習活動の成果発表の場として、また、市民の手作りによる優れた作品や芸術の鑑賞の場として、文化活動の中心となるものである。			
	事務事業の経緯	昭和37年から続けられてきた市民文化祭は実行委員会を組織し実施されており、合併時の平成17年は第1回ふじみ野市文化祭として行われたが、平成18年からは [おい会場]、[かみふくおか会場]として実施されてきた。令和2年度から上福岡公民館が、令和3年度から大井中央公民館が工事のため使用できなくなるため、実行委員会を統合する検討委員会を立ち上げ、準備を開始した。			
	事務事業の概要	公民館等の全施設を活用し、作品展示・芸能発表・音楽祭・講演などの発表を実施。			
	令和4年度の主な取組	第16回市民文化祭おい会場では、9部門【子どもフェスティバル、作品展示部門、芸能祭部門（邦舞・洋舞・カラオケ）、音楽祭部門、大会部門、子ども劇場、青年祭）の実施予定であったが、令和元年度参加団体に電話や面談によるアンケートを実施し、そのアンケート結果を検討委員会、公民館運営審議会にて意見を仰ぎ中止とした。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00
人件費計	0	0		
事業費	報酬※	0	0	
	賃金※	0	0	
	需用費	0	0	
	委託料	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	
	工事請負費	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	
	扶助費	0	0	
その他事業費※	0	0		
支出合計		0	0	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源	0	0		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	市民文化祭参加団体数		
	説明	文化祭に参加した団体数。 令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止の点から、①不特定多数の人が来場されること ②新型コロナウイルスの影響による参加団体の準備が間に合わないなどを踏まえ、中止とした。		
活動	単位	団体		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	120	0	0
	実績値	0	0	
指標 2	指標名	市民文化祭入場者数		
	説明	文化祭開催期間に来場した人数。 令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止の点から、①不特定多数の人が来場されること ②新型コロナウイルスの影響による参加団体の準備が間に合わないなどを踏まえ、中止とした。		
成果	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	6,000	0	0
	実績値	0	0	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>令和元年度まで【おおひ会場】【かみふくおか会場】の各実行委員会が行っていた方式を、1つの実行委員会として行う市民文化祭とした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、開催の可否について判断する必要性が生じ、昨年参加した団体や役員などにアンケートを行い、それを基に議論を行った。その結果、①不特定多数の人が来場されることによる感染拡大防止策が懸念されること②参加予定団体の準備が不確実なことなどから、中止とした。</p> <p>令和3年5月22日～6月10日 電話・面談アンケート実施 7月10日 検討委員会開催 7月14日 公民館運営審議会にて意見徴集</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>一般市民及び公民館活動サークルが普段の活動の発表の場として、文化祭への参加をすることを目標に活動するとともに、見に来た人たちが興味を持ち、サークルに入り活動をするなどして文化の発展に寄与することができることから今後も継続して実施をすることが必要である。</p> <p>令和3年度から大井中央公民館建て替え工事、またステラ・イーストホール棟についても令和5年度には建替え工事が始まることから、一つの実行委員会として行う市民文化祭として統合した運営が求められる。</p>
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		上福岡西公民館管理運営事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 03公民館費		
所管部課		教育部 上福岡西公民館	評価責任者	内田徳子
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		社会教育法、ふじみ野市立公民館条例、ふじみ野市立公民館条例施行規則、ふじみ野市教育振興基本計画アクションプラン、ふじみ野市文化・スポーツ振興条例		
事務事業の 内容	事務事業の 目的	市民が充実した環境で安心して学習できる場所を提供するため、施設・設備の安全管理を行う。		
	事務事業の 経緯	市民の教養の向上、健康の増進、学術及び文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として各種の事業を行う上で、安全で安心して学習できる施設の維持管理・提供に努める。		
	事務事業の 概要	生涯学習の場の提供及び施設の維持管理・運営を行う。		
	令和4年度の 主な取組	上福岡西公民館は、昭和62年9月に開設され、今年で開館36年を迎える。公民館は、地域住民の交流の場、学習の場として利用できる教育施設である。また、豊かな生活に資するため、様々な講座や催しを開催している。 上福岡西公民館維持管理運営事業では、公民館を市民が充実した環境で安心して学習できる場を提供するため、施設・設備の安全管理を行っている。 令和4年度に実施した施設修繕は下記のとおりである。 * 高圧引込みケーブル交換修繕、階段手摺取付修繕、コンデンサー用LBS(ヒューズ)高圧負荷閉塞器交換修繕、ホール音響操作卓修繕、防火シャッター予備電池交換修繕、蛍光灯照明器具修繕等		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.50	1.50	
		人件費	11,922	11,948	
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	
		人件費	0	0	
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.96	1.80	
	人件費	1,710	3,700		
人件費計		13,632	15,648	16,004	
事業費	報酬※	1,689	3,134	3,925	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	8,513	19,496	19,468	
	委託料	19,821	20,128	2,517	
	使用料及び賃借料	205	219	336	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	39	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	1,121	893	1,079		
支出合計		43,271	55,818	39,286	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	549	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	2,072	0	2,023
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	30	0	180
一般財源		40,620	55,818	37,083	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		355	489	321	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	公民館利用者延べ人数		
	説明	公民館を利用した延べ人数。公民館活動や事業など公民館が市民の活動の場となっているかの指標。		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	70,000	70,000	70,000
	実績値	30,356	0	
指標 2	指標名	公民館の利用率		
	説明	施設が有効に利用されているかの指標。 ((利用区分数) ÷ (利用可能区分数)) × 100		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	55.00	55.00	55.00
	実績値	30.60	0.00	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>令和4年度に実施した施設修繕</p> <p>* 修繕一覧 高圧引込みケーブル交換修繕、階段手摺取付修繕、コンデンサー用LBS(ヒューズ)高圧負荷閉塞器交換修繕、ホール音響操作卓修繕、防火シャッター予備電池交換修繕、地下1階機械室冷却水ポンプグランドパッキン交換修繕、1階ロビー排煙装置修繕、点字ブロック等修繕、事務室照明灯修繕等</p>
------------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	開館36年が経過していることから施設の老朽化が進んでいる中、大規模改修も視野に入れながら、施設の維持管理に努め、利用者が安全で安心して活動、学習できる施設を提供する。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		上福岡西公民館分室管理事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 03公民館費		
所管部課		教育部 上福岡西公民館	評価責任者	内田徳子
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		社会教育法、ふじみ野市立公民館条例、ふじみ野市立公民館条例施行規則、ふじみ野市教育振興基本計画アクションプラン、ふじみ野市文化・スポーツ振興条例		
事務事業の内容	事務事業の目的	市民が充実した環境で安心して学習できる場を提供するために施設・設備の安全管理を行う。		
	事務事業の経緯	上福岡西公民館分室は昭和59年に、市内市民のために、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として開館し、現在に至っている。		
	事務事業の概要	生涯学習の場の提供及び施設の維持管理・運営を行う。		
	令和4年度の主な取組	上福岡西公民館分室維持管理事業では、分室を市民が充実した環境で安心して学習できる場を提供するために施設・設備の安全管理を行っている。 令和4年度に実施した修繕は次のとおりである。 * 修繕一覧 1階給湯室天井換気扇修繕、1階2階トイレ暖房便座取付け修繕、1階2階トイレドアアクローガー修繕、2階男子小便器汚水排水修繕		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.20	0.20
		人件費	1,590	1,593
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		1,590	1,593	1,590
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	441	604	414
	委託料	338	338	240
	使用料及び賃借料	0	0	0
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	0	0	1	
支出合計		2,369	2,535	2,245
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	24	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		2,345	2,535	2,221
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		21	22	19

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	公民館分室利用者延べ人数		
	説明	分室を利用した延べ人数。分室が市民の活動の場となっているかの指標。 延べ利用者数		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	2,700	2,700	2,700
	実績値	871	0	
指標 2	指標名	分室利用率		
	説明	地域の公民館分室がどれだけ有効に利用されているの指標。 ((利用区分数) ÷ (利用可能区分数)) × 100		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	20.00	20.00	20.00
	実績値	7.80	0.00	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	令和4年度に実施した修繕
	<p>* 修繕一覧</p> <p>1階給湯室天井換気扇修繕、1階2階トイレ暖房便座取付け修繕、1階2階トイレドアアクローガー修繕、2階男子小便器汚水排水修繕</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	施設の維持管理に努め、利用者が安全で安心して活動、学習できる施設を提供する。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		図書館管理運営事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	38 社会教育 一温もりある人と地域を育む学びを推進しますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 04図書館費		
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成27年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		図書館法、ふじみ野市立図書館条例及びふじみ野市立図書館条例施行規則、施設設備管理の関連法令		
事務事業の内容	事務事業の目的	上福岡図書館及び大井図書館の運営を支えるため施設管理及びモニタリング、指導を行う。		
	事務事業の経緯	昭和53年に上福岡市立図書館設置条例制定。その後市民の図書館建設運動を経て平成6年現在地に市民要望と意見を取り入れて建設され、平成27年10月から指定管理者制度を導入して運営を行う。大井図書館は、昭和63年7月に町民要望により開館した。令和2年度から指定管理制度を導入した。令和3年度から上福岡図書館・大井図書館を統合して「図書館管理運営事業」とした。		
	事務事業の概要	上福岡図書館は平成27年度から、大井図書館は令和2年度から続けている指定管理者による管理運営を継続する。 上福岡図書館は、平成5年度竣工、平成6年度開館の施設のため、空調機を中心に施設各所に老朽化等による劣化・不具合が生じているため、大規模改修工事を行う。 大井図書館は、令和5年度に移転することを考慮し、安全性の観点から必要不可欠な修繕のみ対応する。		
	令和4年度の主な取組	指定管理者による管理運営が円滑に進むよう連携を図るとともに、モニタリングを通じて評価、指導を行った。 現在の指定管理期間が令和4年度満了するため、次期指定管理者の選定を行った。 図書館協議会を運営し、3回会議を開催した。 上福岡図書館空気調和機修繕及び上福岡図書館吸収式冷温水機修繕を実施した。また、全館的な施設修繕が必要なため、大規模改修工事実施に向けて設計業務委託を行い、改修内容の検討を進めた。 大井図書館については、令和5年度開館予定の西文化施設への移転に向けた調整を行った。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	2.00	1.30	1.80
		人件費	15,896	10,355	14,307
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
人件費	0	0	0		
人件費計		15,896	10,355	14,307	
事業費	報酬※	60	48	107	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	47	1,873	212	
	委託料	284,274	303,745	294,541	
	使用料及び賃借料	9,608	9,608	10,379	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	236	239	251		
支出合計		310,121	325,868	319,797	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	33
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	5,100	0
		その他	0	0	7
一般財源		310,121	320,768	319,757	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		2,711	2,811	2,766	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	貸出者数		
	説明	資料の貸出利用人数が身近な施設としての事業の成果を示す指標となる。		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	249,000	255,000	258,000
	実績値	190,479	0	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>1 実績について</p> <p>(1) 令和2年度から上福岡図書館と大井図書館の一括した指定管理者による管理運営開始により、モニタリングを実施した。</p> <p>(2) 図書館協議会会議を3回開催した。(7/1、10/4、3/7)</p> <p>(3) 西文化施設への移転に向けて、関係各課及び指定管理者との調整を行った。</p> <p>(4) 上福岡図書館大規模改修工事に向けて上福岡図書館大規模改修工事設計業務委託契約を締結し、改修工事の内容を検討するとともに、休館中の対応等を検討した。</p> <p>2 事業の効果について</p> <p>(1) 図書館サービスの維持・向上につながった。</p> <p>(2) 大井・上福岡両図書館の指定管理移行により民間活力導入の拡大を図ることができた。</p> <p>(3) 施設の適切な管理を図ることができた。</p> <p>(4) 会議室等の有料貸出開始により負担の公平化と受益者負担を図った。</p> <p>※産休代替等に係る会計年度任用職員の人件費として別途予算管理する2,075千円が加算される。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	ふじみ野市立図書館が「ミッション（使命）」とする「市民の暮らしが豊かになるよう、『知りたい、学びたい、楽しみたい』を支えます」を実現し、地域の情報拠点として市民の学びを支え、市民とともに歩む図書館を目指すために、次の事業が求められている。
中長期的方向性	1 指定管理者による管理運営の実施とモニタリングによる図書館サービスの維持。 2 ボランティア・市民と協働した図書館事業の実施。
継続	3 小学校配置の学校図書館支援員を活用し、小中学校に導入した図書館システムパソコンを活用した図書館サービスの展開を図る。 4 建築後29年を経過している上福岡図書館の大規模改修工事を行う。 5 大井図書館の西文化施設への移転準備と移転、開館業務を行う。 6 電子図書館の導入によるサービスの向上を図る。